

2006年1月16日

**プレスリリース**

本資料は1月16日にチューリーッヒで発表されたプレスリリースの翻訳版です

**クレディ・スイス  
全世界で新ブランドを導入**

クレディ・スイスは、本日、全世界で新たなブランドとロゴの導入を開始しました。クレディ・スイスは、2006年1月1日から一つに統合されたグローバルバンクとして業務を開始しており、新しい「クレディ・スイス」ブランドとロゴの導入はその戦略的方向性を示すものです。この新ブランド導入を祝して、本日から一週間、香港、ロンドン、ニューヨーク、シンガポール、チューリーッヒの当社ビルではイルミネーションが点灯されます。

一つに統合されたグローバルバンクとは、インベストメント・バンキング、プライベート・バンキング、アセット・マネジメントの三事業を一つの銀行に統合することで、これによって当社のノウハウと専門知識を結集し、世界中でより幅広い商品とサービスを提供し、顧客ニーズにより柔軟に対応することができるようになります。統一されたブランドとロゴの導入は、この組織統合を補強するものです。

新ブランドは、インベストメント・バンキング、プライベート・バンキング、アセット・マネジメントの各分野における世界有数の金融機関としてのダイナミズムと革新性および長い歴史を誇るスイスの銀行としての安定性、実績、思慮深さを表しています。帆の形をしたシンボルは旧ファースト・ボストンの帆船ロゴを参考にしたもので、インベストメント・バンキングの伝統と先駆者・航海者という概念を図式化したものです。

クレディ・スイス最高経営責任者のオズワルド・グリュールは次のように述べています。「新ブランドはクレディ・スイスの国際性、これまでの歴史的遺産、そしてこれからの目標を示しています。統一ブランドの導入は、私たちが持つあらゆるノウハウを一つの銀行を通じてお客さまに提供できるということであり、また、市場において統一された力強い存在感を示すことができるということです」。

また、クレディ・スイスは、本日、新たなブランドの導入を補完するグローバル広告キャンペーンを開始しました。この広告キャンペーンは「Thinking New Perspectives／新しい考え方」というキャッチフレーズを用いて、革新的な方法でお客さまのニーズに応えるというクレディ・スイスの伝統を強調しています。

## 本件に関するお問い合わせ先

クレディ・スイス  
コーポレート・コミュニケーションズ  
梶野 勇  
Tel 03 4550 9893  
Email isamu.kajino@credit-suisse.com

### クレディ・スイスについて

クレディ・スイスは、世界有数の銀行として、インベストメント・バンキング、プライベート・バンキング、アセット・マネジメント事業を世界中で展開し、アドバイザー・サービス、包括的なソリューション、革新的な商品を、世界中の法人および富裕層個人顧客、またスイス国内の一般個人顧客に提供しています。クレディ・スイスは、世界 50 ヶ国以上に拠点をもち、約 40,000 人の従業員を有しています。

### 予測情報に関する注意事項

本プレス・リリースには予測情報に該当する記述が含まれています。さらに、将来、当社および当社に代わって他の者が予測情報に該当する内容の声明をおこなう場合があります。かかる予測情報には当社の計画、目的もしくは目標に関する声明、当社の将来的な業績もしくは見通し、一定の偶発事由による当社の業績に対する潜在的な影響およびかかる声明の基礎となる前提事項などが含まれます。「信じている」、「期待している」、「予期している」、「企図している」、「計画している」およびこれらに類似の表現は予測情報であることを示すために使用していますが、予測情報かどうかを見分ける決定的な要因ではありません。適用される法律により要求される場合を除き、当社は特にこれらの予測情報を更新することは予定していません。予測情報の性質上、予測情報には一般的または具体的な固有のリスクや不確定要因が伴い、予想、予測、見通しおよび予測情報に記載もしくは暗示されたその他の結果が達成されないリスクが存在します。いくつかの重要な要因によって、実際の結果が予測情報に含まれる計画、目的、予想、予測および企図と大幅に異なる場合があります。これらに留意して下さい。これらの要因には以下のものが含まれます。(i) 市況および金利の変動、(ii) 一般的には世界的な経済力、および特に当社が業務をおこなう国の経済力、(iii) 相手方の当社に対する義務履行能力、(iv) 会計、金融、貿易および税務の方針の影響およびこれらの方針の変更ならびに為替変動、(v) 戦争、社会不安、およびテロなどの政治的、社会的情勢、(vi) 当社が業務をおこなう国における外国為替管理、公用徴収、国有化もしくは資産の没収、(vii) 十分な流動性を維持し、資本市場に参入する能力、(viii) システム故障、人的エラー、もしくは手続の適正な処理不能等の業務運営上の要因、(ix) 当社が業務をおこなう国における、規制当局による当社の事業および活動に対する措置、(x) 法律、規制および会計原則もしくは実務の変更による影響、(xi) 当社が業務をおこなう地理的な地域および営業地域における競争、(xii) 有能な人材を保有し、採用する能力、(xiii) 当社の評判を維持し、ブランドを促進する能力、(xiv) 市場を拡大し、費用を管理する能力、(xv) 技術の変化、(xvi) 当社の新商品および新サービスの適時の開発および導入、ならびに顧客による当該新商品および新サービスの認識された全体的な評価、(xvii) 買収、および買収後の事業統合を成功させる能力、(xviii) 訴訟およびその他の偶発事由による不利な結果、および (xix) 当社の上記リスクに関する管理能力。上記の重要な要因のリストはすべての要因を列挙したものではありません。予測情報を分析する場合、上記の要因およびその他の不確定要因および事由を注意深く検討すると共に、米国証券取引委員会に提出された当社の直近のフォーム 20-F およびフォーム 6-K に記載されたリスクをも検討して下さい。